

# 国語科学習指導案

日 時：令和元年10月21日（月）

## 1 単元名

『おくのほそ道』のおすすめスポットを紹介しよう  
～文章と俳句に表れた芭蕉の思 いを捉える～

## 2 単元の目標

(1) 粘り強く『おくのほそ道』を読み返し、学習課題に沿って紹介文を書こうとすることができる。

[主体的に学習に取り組む態度]

(2) 『おくのほそ道』の俳句や地の文を読み、紹介文を書いたり交流したりすることで、その世界に親しむことができる。

[知識及び技能] (3) 我が国の言語文化に関する事項 ア

(3) 紹介文を書くために文章を読んだり、他者の紹介文を読んだりして文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

[思考力・判断力・表現力等] C読むこと イ

## 3 評価基準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
『おくのほそ道』の俳句や地の文を読み、ノートやワークシートにまとめたり紹介文を書いたりすることで、その世界に親しんでいる。 [知識及び技能] (3) ア	紹介文を書くために文章を読んだり、他者の紹介文を読んだりして、俳句と地の文のつながりについてまとめることができる。 [思考力・判断力・表現力等] C読むこと イ	積極的に関連資料を読み、学習の見通しを持って紹介文を書こうとしている。

## 4 単元について

### (1) 単元を貫く言語活動と教材

平成29年に告示された新学習指導要領においては、古典の指導に関する記述はこれまでの[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]という扱いから、[知識及び技能]における(3)我が国の言語文化に関する事項という位置づけに整理されたが、「古典の世界に親しむこと」を指導事項とする点は従前そのまま継続している。

だが一言に「古典の世界に親しむ」と言っても、生徒の中には古典の世界に関する興味が薄い者もおり、またその授業も内容の読解や古語に関する知識などの技術的な部分のみを重視しがちな場合もある。

そこで今回の学習では、朝読書の時間を活用し、学級全体で角川文庫ビギナーズ・クラシックス『おくのほそ道』を読んで、気に入った俳句および一場面を選び、お互いに紹介しあうという活動を行う。

今回取り扱う『おくのほそ道』は、松尾芭蕉による我が国の古典における紀行作品の代表的存在である。作品の構成としては、実際に芭蕉が訪れたとされる名跡にまつわる小話と、そこで詠んだとされる俳句が添えられる形をとっている。いわゆる一般的な句集・歌集と異なり、芭蕉が感じたことが地の文の形式で書かれていることから、俳句のみを鑑賞の対象とするよりも、古典を苦手とする生徒でも取り掛かりやすいのではないかと思われる。

俳句のみの鑑賞ではなく、芭蕉が訪れた土地に関する地の文と、ビギナーズ・クラシックスに掲載されている解説等を繰り返し粘り強く読むことで、古典の世界に親しむことができると考え、今回の授業の教材としてふさわしいと考えた。

また、朝読書の時間を活用して集団読書に取り組むことで、生徒たちがゆっくりと作品に向き合い、文章を吟味し、古典の世界と親しむことができると考えた。朝読書の時間は生徒たちにとって読書習慣を身に付けさせ、読書の幅を広げる上で重要なものである。

そのため今回の授業においては、おすすめの場所を紹介するという目的意識を持って、集団で『おくのほそ道』の読書に取り組ませることによって、普段は手に取ることが少ないであろう古典作品に親しむ契機となることを目的とした。

なお、本来芭蕉の五・七・五は「俳諧」と呼称し、一般的に明治時代に正岡子規らの台頭によって生まれた作品群を「俳句」と呼ぶが、今回の授業では学習者の習熟度も考慮し、混乱を避けるために『俳句』という呼び方で統一する。

## (2) 単元で身に付けさせたい力

本単元では、紹介文を作る過程において読書を繰り返すことによって、指導事項[思考力・判断力・表現力等]の【C読むこと】「イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える」力をつけたい。ここでの「批判的に読む」とは単に文章の内容について否定的な意見を持つことではなく、学習指導要領解説によれば、「登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分の考え方の違いを確認したりするなど、批判的に読むことが重要である」とされているように、俳聖芭蕉の目を通して創作された俳句や地の文を通して、生徒たちが自分とは違った考えを知り、それについて考えることのできる力を身につけさせたい。

そして、『おくのほそ道』を繰り返し読むことを通して、新学習指導要領の第3

学年の指導事項〔知識及び技能〕の（３）我が国の言語文化に関する事項「ア歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その背景に親しむこと」を目指す。『おくのほそ道』において芭蕉が巡った地は、古くから歌枕とされる場所や名所旧跡が多く、学習を進めていくうちにその歴史的背景や関連する情報にも触れることができる。

（３）（１）（２）の基盤となる言語環境や継続的な取組

本学級では６月に『学びて時に之を習ふ（『論語』より）』の授業においても、角川文庫ビギナーズクラシックス『論語』を使用した集団読書を行った。自分の気に入った論語を選び、「クラスメイトに贈る論語の一言日めくりカレンダー」を作成し、クラスに掲示するという学習活動を行った。約二千五百年以上も過去の人物の言行であっても、今の自分に通ずる部分もあり、生徒たちが古典の世界に親しむ機会を設けることができた。

また、『月の起源を探る』の授業においては、文章を繰り返し読み、その要点を一枚のプリントにまとめるという授業を行った。一読しただけでは内容を捉えることが難しい文章であっても、繰り返し粘り強く読むことによって、その要旨をつかみ、自分の考えを広げるための基礎づくりをすることができた。

これらの学習を踏まえ、今回の授業では古典に親しむとともに、生徒たちが文章に表れているもの見方や考え方について考えることのできる授業としたい。

## 5 単元の指導計画

時	○主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○『おくのほそ道』序文を読み、作者・作品について理解する。	[知識及び技能]	ノート
2	○『おくのほそ道』序文を読み、内容と芭蕉の旅に対する思いを捉えさせる。	[知識及び技能]	ノート
3	○ビギナーズクラシックス『おくのほそ道』を読み、紹介する担当箇所を決める。	[主体的に学習に取り組む態度]	ワークシート
朝読書	○『おくのほそ道』を読み、紹介したい俳句・地の文の理解を深める。 ○関連する書籍、資料等を活用して理解を深めておく。		
4 (本時)	○ビギナーズクラシックスやその他の資料を参考に、選択した俳句・地の文の紹介文を書く。	[主体的に学習に取り組む態度] [思考力・判断力・表現力等]	ワークシート
5	○これまでの学習を踏まえ、紹介文を完成させる。	[主体的に学習に取り組む態度] [思考力・判断力・表現力等]	ワークシート
6	○選択した俳句・地の文を紹介しあい、交流する。	[知識及び技能]	ワークシート

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
1	<p>○本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">           作者・作品について理解しよう         </div> <p>○序文の原文と現代語訳の範読を聞く。 ○原文を音読する。</p> <p>○『NHK for school 10min ボックス 古文・漢文』を視聴し、内容について理解する。</p> <p>○教科書の解説を読みながら、作者・作品についてノートにまとめる。</p> <p>○本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・まずは耳から『おくのほそ道』を味わい、声に出して繰り返し読むことで古典の世界に親しませる。</p> <p>・芭蕉にとってこの旅が現代における旅行のようなものではなく、非常に過酷なものであったことを理解させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           [知識及び技能] ノート         </div>
2	<p>○前時の内容の振り返りと本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;">           『おくのほそ道』序文の内容をとらえよう         </div> <p>○原文を音読する。</p> <p>○現代語訳を読み、芭蕉の旅に対する思いをとらえる。</p> <p>○本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・交代読みや指名読みなどの音読のバリエーションを増やし、古典に親しませる。</p> <p>・芭蕉の年齢や境遇、当時の旅の過酷さを踏まえたうえで、それでも旅に出たいという芭蕉の思いについて説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           [知識及び技能] ノート         </div>

3	<p>○前時の内容の振り返りと本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">『おくのほそ道』のおすすめスポットを見つけよう</div> <p>○学習の手引きを活用し、今後の流れについて確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所で有名なものは何か。</li> <li>・その俳句の季語にはどんな意味があるのか。</li> <li>・芭蕉の思いが表れている古語は何か。 等</li> </ul> </div> <p>○ビギナーズクラシックス『おくのほそ道』を読み、紹介する担当箇所を決める。</p> <p>○ワークシートを3種類配布する。</p> <p>○本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。</p>	<p>・紹介文のモデルを提示し、学習のゴールを確認する。</p> <p>・読み取りのポイントを説明し、どこに注目すればより良い紹介文が書けるかを説明する。</p> <p>・『おくのほそ道』の全行程を3ブロックに分け、その中から紹介する場所を選ぶよう伝える。</p> <p>・ワークシートを3種類用意し、学習者の習熟度に合わせて選択できるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ワークシート</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 グループ…旅立ち～飯塚 ( p 1 6 ～ 7 6 )</p> <p>2 グループ…笠島～出羽三山 ( p 7 7 ～ 1 5 1 )</p> <p>3 グループ…酒田～大垣 ( p 1 5 2 ～ 2 2 1 )</p> </div>
朝読書	<p>○『おくのほそ道』を読み、紹介したい俳句・地の文の理解を深める。</p>	<p>・関連する書籍を学級文庫に配置し、閲覧して参考にできるようにしておく。</p> <p>・図書館指導員とも連携し、関連する書籍を用意する。</p>	

4 (本時)	○前時の内容の振り返りと本時の学習目標を確認する。		
	『おくのほそ道』おすすめスポットを紹介するために、俳句と地の文に注目して読もう		
	○ビギナーズクラシックスやその他の資料を参考に、選択した俳句・地の文の紹介文を書く。  ○他の生徒の記述も参考にし、紹介文を書く。  ○本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。	・ワークシートを3種類用意し、学習者の習熟度に合わせて選択できるようにする。  ・書画カメラを活用し、活動中の生徒の作品を教師が紹介して参考にさせる。	[主体的に学習に取り組む態度] [思考力・判断力・表現力等] ワークシート
5	○前時の内容の振り返りと本時の学習目標を確認する。		
	おすすめスポットの紹介文を完成させるために、俳句と地の文に注目して読もう		
	○これまでの学習を踏まえ、紹介文を完成させる。  ○本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。	・書き終えた生徒の作品を黒板に掲示し、書けない生徒の参考にさせる。	[主体的に学習に取り組む態度] [思考力・判断力・表現力等] ワークシート
6	○前時の内容の振り返りと本時の学習目標を確認する。		
	『おくのほそ道』おすすめスポットを紹介しあい、作品の読みを深めよう		
	○選択した俳句・地の文を紹介しあい、交流する。  ○本時の内容を振り返る。	・異なるブロックの生徒と交流し、様々な『おくのほそ道』の俳句に触れ、古典の世界に親しませる。	[知識及び技能] ワークシート

## 6 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

◇紹介文を書くことを通して、俳句や地の文に表れたものの見方や考え方についてまとめることができる。  
[思考力・判断力・表現力等] C読むこと イ

◇粘り強く『おくのほそ道』を読み返し、紹介文を書こうとすることができる。

[主体的に学習に取り組む態度]

### (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
5	1 本時の学習内容と目標を確認する。【全体】	○これまでの単元を振り返り、学んだことを確認する。	
	『おくのほそ道』おすすめスポットを紹介するために、俳句と地の文に注目して読もう		
10	2 学習のてびきを参考に、紹介文を書くことを説明する。【全体】  3 ワークシートを配付する。 【全体】	○紹介文を書くことを通して、古文に親しむことを説明する。  ○ワークシートを複数種類用意し、学習者の習熟度に合わせて選択できるようにする。	
15	4 紹介文を書く。【個人】	○書けない生徒には読み取りのポイントを中心に、歳時記や他の資料を参考にするようにアドバイスする。	[主体的に学習に取り組む態度]
	<p>読み取りのポイント・アドバイスの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所で有名なものは何か。 → なぜ芭蕉はこの場所を選んだのだろうか？芭蕉より以前の時代に、この場所でどんなことがあったのだろうか？</li> <li>・その俳句の季語にはどんな意味があるのか。 → 他にも同じ季節を表す言葉はたくさんあるのに、なぜこの言葉を用いたのだろうか？この言葉には、他にどんな意味があるのだろうか？</li> <li>・芭蕉の思いが表れている古語は何か。 → 字の文で使われているこの言葉は、古文ではどんな意味で使っているのだろうか？</li> </ul>		
		○机間指導をしながら、全体の参考にできる作品を探しておく。	
5	5 書画カメラを活用し、生徒の作品を全体で共有する。【全体】	○他の生徒が参考にできる記述やレイアウトを紹介する。	



10	6 書画カメラで見た作品も参考にし、紹介文を書く。【個人】	○机間指導をしながらポイントとなる表現や言葉に着目させる。	<p>[思考力・判断力・表現力等] ①</p> <p>【評価方法】</p> <p>ワークシートの記述</p> <p>〈B評価の姿〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句や字の文に表れたものの見方や考え方について紹介文にまとめている。</li> </ul> <p>〈C評価の生徒への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度に適したワークシートを活用し、古文が苦手な生徒でも紹介文を書く活動ができるようにする。</li> <li>・机間指導をしながら注目すべき表現や言葉についての助言を行う。</li> </ul>
5	7 本時の内容を振り返り、次時の内容を確認する。	○次時で紹介文を完成させることを伝え、必要に応じて資料を集めたり、紹介文を書き進めたりさせる。	

### (3) 評価

- ・ 紹介文を書くことを通して、俳句や地の文に表れたものの見方や考え方についてまとめている。  
[思考力・判断力・表現力等] C読むこと イ
- ・ 粘り強く『おくのほそ道』を読み返し、紹介文を書こうとしている。  
[主体的に学習に取り組む態度]